

PGI Club 定例研修会

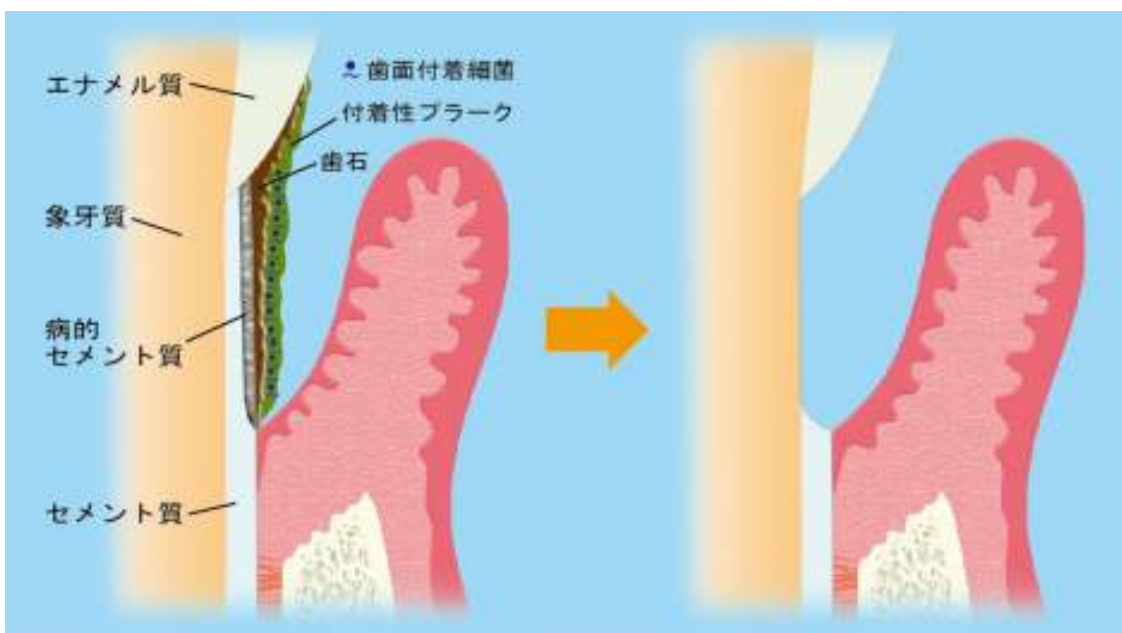
歯周病治療の勘どころ

その1 プラークコントロール

伊藤 公一

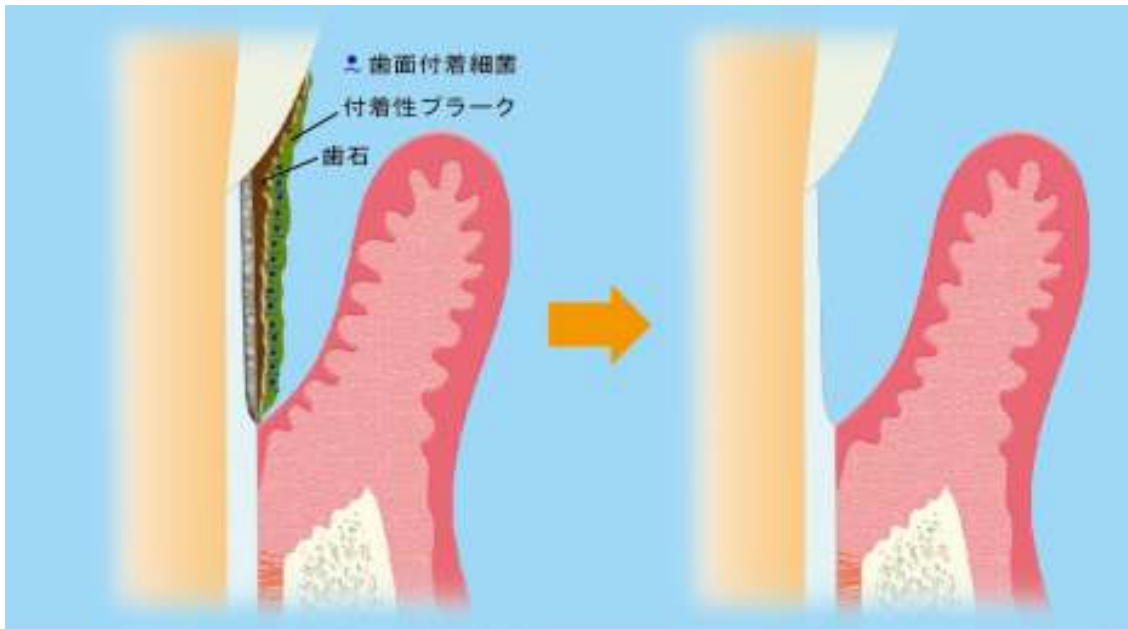
要旨：炎症を主徴候とする歯周病（歯肉炎や歯周炎）は、プラーク中の細菌による感染症であることがわかっています。したがって、日常プラークを適切に除去していれば歯周病には罹患しないこととなります。しかし、多くの国民が歯周病に罹患していることは周知の事実です。プラークコントロールは、患者と歯科医療従事者の協働作業で行うことが重要です。とりわけ、歯肉縁下のプラークコントロールは、最近では歯肉縁下デブライドメントと言われるようになり、歯周治療を成功させるために歯科医療従事者が責任を持って行うことが不可欠となります。それでは、実際の臨床においてどの程度のデブライドメントを行えばよいのか？また、どのようなインスツルメントが有用なのか？デブライド完了の目安はなにか？などについて解説する予定です。

【 図 1 】 歯肉縁下デブライドメントの変遷：古典的 - 汚染セメント質の徹底的除去

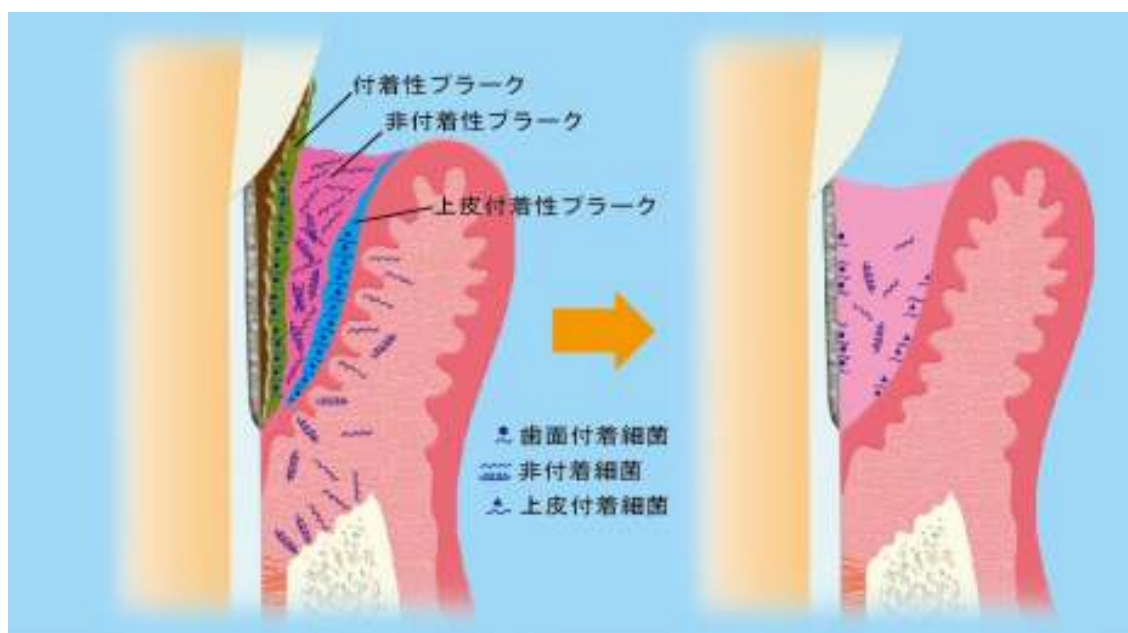


<講演要旨 2-2> ※無断転載を禁じます

【 図 2 】 歯肉縁下デブリメントの変遷：セメント質の温存



【 図 3 】 歯肉縁下デブリメントの変遷：細菌との共存



※「その2」は、平成 25 年 7 月 27 日（土）実施